

## 「一人でも多くの高齢者に働く場と生きがいを」を提供！

### I. 自己紹介

- 1) 持 病 ①パーキンソン病（モハメッド・アリ）
- 2) 出身地 ②1938年3月18日 愛媛県八幡浜市に生まれる。
- 3) 略 歴 ③1956年東京ガスに検針員として入社  
④1991年株式会社ガスター出向（専務取締役・営業本部長）  
⑤1997年東京器工株式会社出向（代表取締役社長）  
⑥2000年株式会社高齢社設立  
⑦2002年株式会社ユーニティ設立

### II. 設立のきっかけと目的

- 1) きっかけ ①自分自身が定年退職後、自分の経営理念・経営方針を実現できる企業の設立を考えていたこと。  
②東京器工で365日メンテ体制実施に伴う要員不足補充  
③60歳を超える社員が多く、65歳くらいまでは働ける場を提供了かたったこと。  
④人件費をできる限り変動費化したかったこと。
- 2) 目 的 ①高齢化社会を迎えるにあたり、定年退職をした中で働くことに「気力」「体力」「知力」を持った方に「働く場」と「生きがい」を提供したいと考え高齢社を設立した。

### III. 会社設立にあたり4つのこだわり

- 1) 社 名 ①株式会社高齢社
- 2) 設立年月日 ②2000年1月1日（現実には1月4日）
- 3) 所在地 ③日本の中心に置くこと（千代田区外神田）
- 4) 出資者 ④個人に限定

### IV. 事業内容と登録社員の雇用条件

- 1) 事業内容 設立当初はガス会社やガス機器メーカーの請負業務のみ
- 2) その後、事業拡大のため、派遣業・紹介事業の資格を取得
  - ①各種請負事業
  - ②一般労働者人材派遣事業「2002年7月」
  - ③有料職業紹介事業「2004年11月」
- 3) 採用条件 60歳以上75歳未満で気力・体力のある方

- 4) 勤務形態 業務のある時のみ勤務する不規則勤務形態  
 5) 処遇条件 登録社員は原則時給。賞与手当・退職手当はなし。期末手当はあり。  
 6) 社会保険 個人加入、労災保険は適用あり。

## V. 売上高と登録社員数の推移

(百万人)

項目	H15年度	H20	H24	H25	H26	H27
売上高	35.0	296.9	459.2	533.1	490.7	492.6
経常利益	2.9	21.1	14.2	41.6	23.3	12.6
配当(%)	5.0	12.5	12.5	20.0	5.0	8.0

## VI. 経営理念

- ①定年を迎ても気力・体力・知力のある方々に「働く場」と「生きがい」を提供
- ②社員≥顧客≥株主の「人本主義」を徹底する。
- ③豊富な経験を活かし、顧客には「高品質・低コスト・柔軟な対応力」を武器に優れたサービスを提供
- ④「知恵と汗と社徳」重視の企業風土を醸成する。

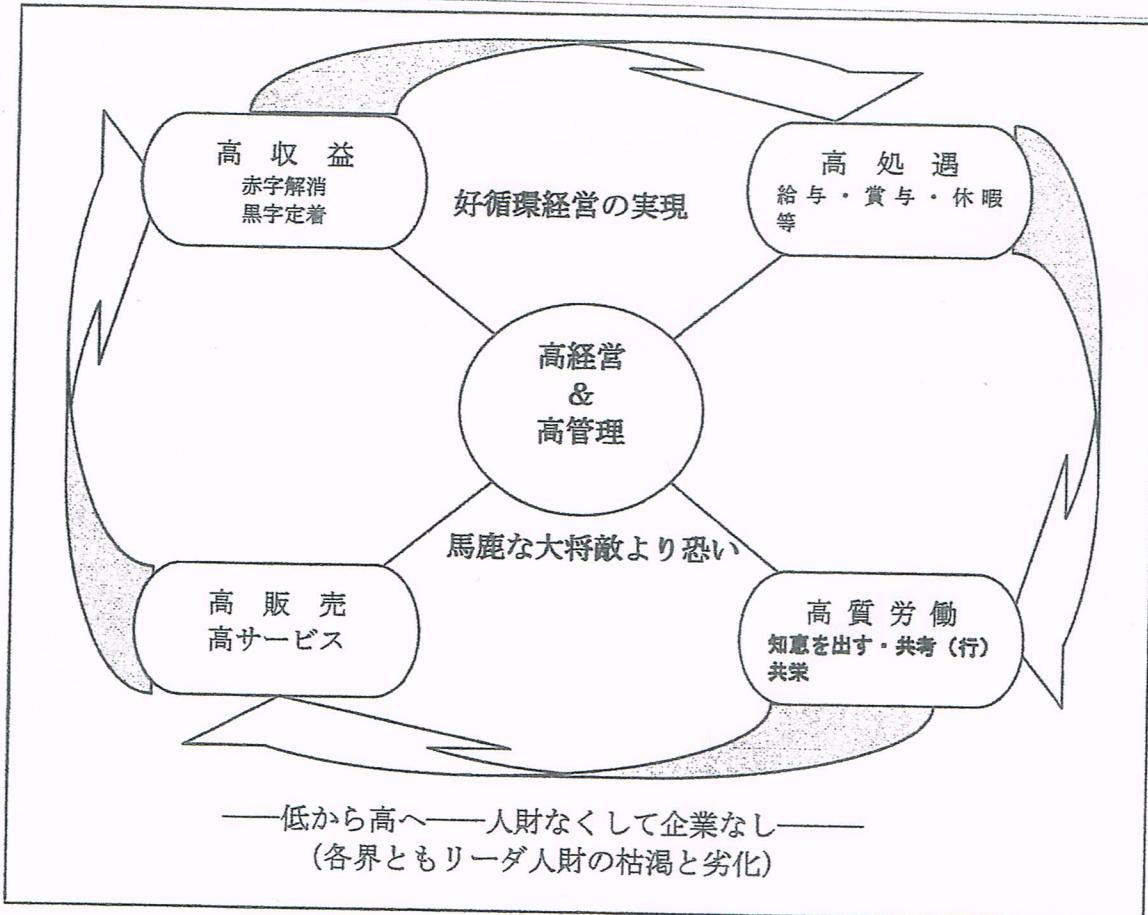
## VII. 高齢社の特徴

- ①登録社員はすべて60歳以上
- ②ワークシェアリング  
働く人の都合を優先し、働きやすい会社。二人一組で一人分の仕事をこなす。
- ③ワークライフバランス  
週3日程度の希望者が多く、長期に休みがとりやすい。
- ④年金併用型
- ⑤就労率の高さ（目標70%、現在は50%程度）
- ⑥期末手当の支給額≥経常利益の20%
- ⑦63歳未満の本部スタッフは勤務形態を問わずすべて正社員扱い
- ⑧経営のオープン化、社員が最高の監査役。ただし、人事はマル秘。
- ⑨社会貢献活動；ストリートチルドレンへの教育資金援助、大災害地への義援金。

## VIII. 現在の私の夢

- ①お金中心でない人間中心の人間味溢れる企業づくり・社会づくり
- ②業界別（または職種別）高齢者活用企業の設立支援
- ③高齢者活躍支援協議会の会員増強
- ④定年制廃止

## IX. 会社経営の基本的考え方（好循環経営の実現）



## XI. これから起業する方へのメッセージ

- 1) 恒に夢を持つこと 志を捨てず 難きにつく (高柳 健次郎)
- 2) いかなる苦難にも負けず、苦難を友とし、苦難を我が師とする。
- 3) やることが正しければ必ず道は拓けます。無いのは「知恵と執念(汗)」
- 4) 人脈づくりに力を入れておくこと (コミ=コミュニケーションの略)  
(4コミの実施) 顔コミ・電コミ・手紙コミ・メルコミ)

### ◎最後に1点

- 1) 夫婦の関係
  - ①退職後女房に大切にされると思ったら大間違い。男は外で働きが本音
  - ②うまくやる秘訣：勝たない、勝てない、勝とうと思わない
  - ③夫婦風邪：熱が冷めても咳（籍）が抜けない  
不倫風邪：咳（籍）がないのに熱が冷めない
- 2) 過去から現在を見たときの今は、自分にとって一番歳を取った時であります。現在から未来を見据えた時の今は、自分にとって一番若い時であります。それ故、今日一日を常に大切にし、いつまでも青春の心を持ち続け、これからも自分の置かれた立場で一杯光り輝き、社会に貢献できる人間でありたいと願っています。
  - ①サミュエル・ウルマンの「青春の詩」をお忘れなく
  - ②人生70万時間今が一番若いとき。今日という日を大切に生きましょう。時は命なり。